

公益社団法人 兵庫県臨床検査技師会 651-0085 神戸市中央区八幡通4-1-38 TEL 078-271-0255 FAX 078-271-0256 E-mail info@hamt.or.jp
編集委員 住ノ江 功夫 / 西田 純子 / 大塚 淳平 / 田中 祐紀子 / 湊 宏美 / 黒木 知佳 / 森川 貴道 / 高田 稜雅 / 忍海邊 康祐 / 岡村 大輔 / 西村 崇弘 / 藤原 淳美
臨床検査情報センター URL <http://www.hamt.or.jp>

CONTENTS	医療職体験セミナー	1・2
	第34回東播地区研究発表会に参加して、今後の予定	2
	令和7年度 第20回丹但地区研修会を開催して、第20回丹但地区研修会に参加して、 #研究班(輸血検査研究班)	3
	[第14回] 突撃! とのりの検査室(医療法人愛心会 東宝塚さとう病院)	4
	会員情報「私の推し事」数珠つなぎ VOL.07	5

医療職体験セミナー 開催報告

会場：バンドー神戸青少年科学館（4F企画室）

会期：2026年3月28日（土）～29日（日）

兵庫県医療職団体協議会主催による「医療職体験セミナー」が、3月28日・29日の2日間にわたり開催されました。本セミナーは、未来を担う小中学生の皆さんに医療の仕事を体験してもらい、将来について考えるきっかけを提供することを目的として実施されたものです。当日は、兵庫県栄養士会、兵庫県歯科衛生士会、兵庫県診療放射線技師会、兵庫県臨床検査技師会、兵庫県言語聴覚士会、兵庫県臨床工学技士会の6団体が出展し、各職種の特徴を活かした体験ブースを展開しました。

来場者数

- ・3月28日（土）参加者170名（子どものみ）／兵臨技ブース体験 90名
- ・3月29日（日）参加者235名（子どものみ）／兵臨技ブース体験 123名
- ・2日間合計 405名（兵臨技ブース体験 213名）

来場者は低学年以下のお子さんを中心でしたが、中学生・高校生の姿も数名見受けられました。

兵庫県臨床検査技師会ブースの様子

兵庫県臨床検査技師会のブースでは、「体の中の名探偵になろう!」「病気の正体を暴け!」をテーマに、子どもたちが楽しみながら“検査”という仕事に触れられる5つ体験を提供しました。注射器を持つことを怖がる子や、顕微鏡を見ながら「はたらく細胞」で興味を持ったと嬉しそうに話す子、白衣を着て嬉しそうにポーズを決める姿も見られました。それぞれが思い思いに楽しみながら体験している様子が非常に印象的でした。



エコーで宝探し



はじめてのピペット操作



検査ブースは大盛況



顕微鏡で何が見える？



試験管に興味深々



上手に採血する子供達

保護者の反応から見えた課題

また、中高生の保護者の方にお話を伺ったところ、「臨床検査技師という名前は聞いたことがあるが、具体的に何をしている職業かはよく知らない」という声がありました。このことから、子どもたちへの体験提供だけでなく、保護者世代への職種理解の啓発も今後の重要な課題であることが改めて浮き彫りとなりました。

最後に

2日間で405名の子どもたちが医療職体験に参加し、そのうち213名が臨床検査技師ブースを体験しました。会場には終始笑顔があふれ、医療の仕事を「楽しい」「カッコいい」「やってみて」と感じてもらえる貴重な機会となりました。本セミナーは、子どもたちにとって将来を考えるきっかけとなるだけでなく、私たち医療職にとっても、自らの仕事の魅力や社会的役割を再認識する機会となりました。今後もこのような取り組みを通じて、医療職の魅力発信と次世代育成に貢献してまいります。

(文責：広報部 住ノ江)



事前準備はバッチリ

第34回東播地区研究発表会に参加して

山中 菜央 会員 (加古川中央市民病院)

第34回東播地区研究発表会に参加しました。特別講演では大阪大学大学院医学系研究科の山本先生に、『臨床検査技師の未来戦略：臨床検査のプロで活躍する方法』をテーマにご講演いただきました。普段より臨床医とコミュニケーションをとる機会が多い山本先生が考える臨床検査技師の環境や課題についての対策を聞くことができ、検査データのための知識を深めるのではなく、幅広い知識をもつことが重要であると学ぶと同時に、今後も臨床検査技師として働き続けるために私にとって何が大切であるかを考える機会になりました。

また、一般演題では当直帯における血液培養処理の取り組みや採血室での静脈路確保業務の導入など、当院でまだ実施できていない業務についての発表などがあり、非常に勉強になりました。

最後になりましたがご講演してくださった先生方、企画・運営してくださった皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。



講師 山本 剛氏

第34回東播地区研究発表会に参加して

片岡 智美 会員 (北播磨総合医療センター)

第34回東播地区研究発表会が明石市民病院にて開催されました。大阪大学の山本先生による特別講演「臨床検査技師の未来戦略：臨床検査のプロで活躍する方法」では、臨床検査技師に求められる専門性の在り方について、豊富な臨床経験に基づく症例や実践例を通して示されていました。専門分野の知識・技術を深化させるスペシャリストとしての役割に加え、臨床経過や病態を踏まえて検査結果を解釈し、多職種と連携しながら診療へ参画するジェネラリストとしての視点の重要性を改めて認識しました。また一般演題では、各施設における業務改善や診療支援への取り組みに触れ、日常業務を見直す良い機会となりました。今後も臨床との関わりを意識しながら専門性の向上に努め、医療の質向上に貢献していきたいと考えております。最後に、本研究発表会を開催・運営された関係者の皆様に深く感謝申し上げます。



演者の先生方



会場風景

《今後の予定》

第43回西播地区研究発表会・第14回医療公開講座

日時／令和8年7月12日(日) 10:00~14:30(予定) 場所／アクリエひめじ(姫路市文化コンベンションセンター)

第1回東播地区ナイトセミナー

日時／令和8年7月24日(金) 18:30~19:30 場所／明石市立市民病院 及び Web(ハイブリッド開催)

令和7年度 第20回丹但地区研修会を開催して

濱 靖 会員（組織部理事）

第20回丹但地区研修会を天候の影響もなく無事に終えることができました。

各演題において基礎的な所から最新情報、症例への着眼点、各種確認作業の大切さなど、普段の何気ない作業から一歩前進できる内容であったと思います。今回参加者の皆様が各施設で実践していただき職場内で伝達して頂けると幸いです。

当地域は冬季雪等の影響で現地に赴く事業の日程調整が極めて難しく、今後実施するにあたり開催時期の検討も必要に思います。

今研修会において実務委員、会員の皆様、又遠方よりお越しいただいた松田会長、講師の小林理事、大沼理事、中島研究班班長に心よりお礼と感謝申し上げます。



左：濱理事 右：松田会長

第20回丹但地区研修会に参加して

中村 真一 会員（公立八鹿病院）

3月7日、朝来医療センターにて開催された「第20回丹但地区研修会」に参加しました。今回の研修会は「未来」をテーマに、3名の講師をお招きし、各分野の基礎から今後の発展につながる内容まで幅広くご講演いただきました。

中島和希先生からは、尿沈渣における形態観察のポイントについて、日常業務に即した分かりやすい解説があり、若手技師にとっても理解しやすい内容でした。大沼健一郎先生からは、ご自身が経験された赤痢アメーバ症例についてご報告いただき、寄生虫感染症のように日常では経験の少ない症例について、実際の陽性例を自分の目で確認することの重要性を改めて実感しました。さらに、小林真先生からは、病理検査における前処理の重要性についてご説明いただき、検査センターへ提出する場合でも施設での固定方法が結果に大きく影響することを具体的な事例を交えて学ぶことができました。

若手からベテランまで多くの学びを得られる大変有意義な研修会でした。講師の先生、また開催を準備頂いた技師会役員のみなさんありがとうございました。



小林先生



大沼先生



中島先生

#研究班

大塚 真哉 会員（輸血検査研究班 班長／兵庫医科大学病院）

輸血研究班の兵庫医科大学病院の大塚です。今回は輸血療法に関するトピックを一つご紹介します。

2026年2月に日本輸血・細胞治療学会より、従来の「輸血療法の実施に関する指針」「血液製剤の使用指針」を統合し、最新の科学的エビデンスに基づいて輸血療法の標準化と安全性向上を目的とした新たなガイドとして「輸血療法実践ガイド」が作成されたのはご存じでしょうか？それに伴い、輸血療法の現場で長く利用されてきた両指針ですが、2026年3月末で廃止の方向になっています。

今回は、新たな輸血療法の指針「輸血療法実践ガイド」について簡単にご紹介したいと思います。このガイドは、従来の指針に比べ輸血の適応判断から実施、管理体制、特殊状況での対応までを体系的に整理され、輸血の基本原則であるリスクとベネフィットの比較検討、必要最小限の投与、成分輸血の推奨が明確に示されています。実施面では、血液製剤の種類・保管方法、輸血検査、投与量設定、輸血手技などを詳細に規定されています。特に、エビデンスに基づく疾患別の輸血トリガー値についての記載や、貯血式・回収式の自己血の適応や院内管理体制の整備が記載されています。管理面では、従来の指針と同様に血液製剤の保管管理、輸血部門の役割、院内輸血委員会の機能、使用記録の保存（20年間）など、法令に基づく責務が整理され、特定生物由来製品としての血液製剤の特性から、インフォームド・コンセントの徹底、患者説明、記録保存が強調されています。さらに、大量出血（手術・外傷・産科）、新生児・小児、在宅輸血、へき地医療など特殊状況における輸血の実践について新たに章立てで示され、施設の規模や地域特性に応じた対応が可能となる構成となっています。他にもまだまだご紹介したいことはありますが、日本輸血・細胞治療学会のホームページにも掲載されておりますので、ご自身で一度ご確認くださいと思います。

今後は両指針に替わり「輸血療法実践ガイド」を参照するように厚生労働省より案内（医薬発0324第2号）も出ておりますので、この機会に施設の輸血療法の整備に活用していただければと思います。

第14回

突撃！
となりの検査室

医療法人愛心会 東宝塚さとう病院（宝塚市）

《所在地》〒665-0873 兵庫県宝塚市長尾町2-1



施設外観

●概要

施設名	医療法人愛心会 東宝塚さとう病院（宝塚市）
病床数	127床
部署人数	技師／11人、その他／2人 男女比／3：10 経験年数／～5年目5人、～10年目2人、 11年目～6人
勤務体制	勤務時間／8：30～17：00 夜勤体制／2交代1人体制
第三者認証	取得無

●検査室で行っている検査領域

検体検査	採血、化学、免疫、血液、一般、微生物、輸血
生理検査	心電図、呼吸機能、聴力検査、 エコー：（心臓・腹部・血管・乳腺・甲状腺） その他／各種術中エコー・術中経食道心エコー 補助など

●施設や検査室で力を入れている領域や特色、アピールポイントなど

検査領域	超音波検査（心臓・血管）
詳細	当院では、救急外来で実施される各種エコー検査はすべて臨床検査技師が担当しており迅速に対応しています。また、術中経食道心エコーの補助に加え、構造的な疾患（SHD）治療やEVUSガイド下EVTなどのカテーテル治療にも積極的に関与し、診断から治療まで一貫して関わる体制を構築しています。

●新人教育について

新人教育の進め方	担当の先輩技師によるパディ制を採用し、年齢の近いスタッフを配置することでメンターとしての役割も担っています。マニュアル化された教育プログラムは設けず、個々の成長や適性に応じて柔軟に指導内容を調整していることが特徴です。また、早い時期から専門チームやカンファレンスへの参加、術中エコーの見学・補助などを経験させ、検査室内に留まらない視野の広い人材育成を目指しています。
フレッシュな技師さんから一言	（村岡 里梨） 生理検査業務に加え、採血室業務（輸血・検体）や夜勤も経験し、先輩方のご指導のもとで多くのことを学んでいます。多くの患者さんや医療従事者の方々と関わる中で、日々やりがいを感じています。今後は心エコーの資格取得を目標に、専門知識や技術の向上に努めたいと考えています。



採血室



生理機能検査室



検査室新年会

●採血室の状況

台数	2台	採血数/1日	120/1日
構成メンバー	技師1人、看護師0.5人（午前のみ）		

●検査領域

分野	検査機器	年間件数
採血	---	42,500
化学	TBA200FR	37,327
免疫	ケミルミ DVIA Centaur CP, Cobas h 232	19,155
血液	XQ520	36,002
一般	クリニテックアドバンタス（尿）	7,753
微生物	外注	1,300
遺伝子	Auto Amp, ID NOW	1,100
輸血	オーソ Optix	1,050
病理	外注	400
心電図	FCP-7541	40,200
呼吸	HI-801	240
聴力	AA-57	240
エコー	Aplio-i900, Aplio-700等	13,500

●運用面での工夫など

当院のような小中規模施設では、現場の声をもとに業務改善を迅速に行える点が強みです。外来検査では、「緊急」検査とは別に「優先」区分を導入し、待ち時間の改善と業務効率の向上を図っています。超音波検査は予約枠に加え、緊急・枠外対応も柔軟に受け入れており、実質的な稼働は非常に高い状況です。臨床との距離が近く、検査結果を診療へ即時に反映できる一方で、業務量の増加や教育時間の確保が課題であり、今後は業務の標準化と教育体制の強化に取り組んでいきます。

●技師長より、読者へ向けて一言よろしくお願いたします

当院は循環器を専門とする二次救急指定病院として、救急外来や手術室、カテーテル室でのエコーなど、検査室の外で活躍する機会が多い環境です。当院では「検査室に籠らず、現場に出て診療に関わる」ことを大切にしています。現在は病棟への検査技師配置も検討していますが、マンパワーの課題もあり、道半ばの状況です。

臨床検査技師は臨床的に高い専門性を有し、日頃から検査の点数や加算、施設基準などを意識する機会も多く、検査のプロフェッショナルであると同時に、経営的視点も持ち合わせやすい職種であると考えています。その能力は臨床の場はもちろん、経営の場でもさらに発揮できるものと信じています。ぜひ皆さんも検査室から一歩外に出て、その価値を発信していきましょう。

文責：大塚 淳平 会員
（東宝塚さとう病院）



／サッカー観戦／

山本 紺 会員(兵庫県立尼崎総合医療センター)

兵庫県立尼崎総合医療センターの山本紺です。

私の推し事は「サッカー観戦」です。小学生の頃からサッカーをしており、その頃からスタジアムに足を運んで試合を観るようになりました。大阪出身ということもあり、セレッソ大阪とガンバ大阪の試合をよく観に行っていました。テレビで見るとは違い、スタジアムならではの応援の熱気やゴールが決まった瞬間の一体感、選手のプレーを間近で感じられる迫力がとても好きで、自然とサッカー観戦が趣味になっていきました。

社会人になってからは仕事の都合で現地観戦の機会は減ってしまいましたが、テレビや配信を通して欠かさず試合をチェックしています。日本代表の試合はもちろん、海外のリーグ



セレッソ大阪VS湘南ベルマーレ

もよく観ており、サッカーそのものを幅広く楽しんでいます。特に最近はプレミアリーグに多くの日本人選手が所属しているため、より一層注目しています。その中でも 鎌田大地選手のプレーには魅力を感じており、特に応援している選手の一人です。

将来は日本代表の試合や海外の試合を現地で観戦することが目標です。今年はワールドカップも開催されるので、これまで以上に熱を入れて日本代表を応援したいと思っています。サッカーは観る人の心を動かすスポーツだと思うので、ぜひ時間があれば一度試合を見て、その魅力を感じてみてください！



遠藤保仁選手ユニフォーム







**全自動免疫測定装置
HISCL™-5000**

医療機器製造販売承認番号：28B1X10014000011

検査環境にフレキシブルに対応
HISCLシリーズ。

医療環境の検査部門に
求められる効率化と高付加価値化に
必要なポテンシャルを備えて
誕生しました。

迅速測定

高感度

微量検体

優れた
ユーザビリティ



**全自動免疫測定装置
HISCL™-800**

医療機器製造販売承認番号：28B1X10014000012

製造販売元
シスメックス株式会社

(お問い合わせ先)

支店 仙台 022-722-1710	北関東 048-600-3888	東京 03-5434-8550	名古屋 052-957-3821	大阪 06-6341-6601	広島 082-248-9070	福岡 092-687-5380
営業所 札幌 011-700-1090	盛岡 019-654-3331	長野 0263-31-8180	新潟 025-243-6266	千葉 043-297-2701	横浜 045-640-5710	静岡 054-287-1707
金沢 076-221-9363	京都 075-255-1871	神戸 078-251-5331	高松 087-823-5801	岡山 086-224-2605	鹿児島 099-222-2788	

www.sysmex.co.jp

2504

Canon



i が描く新たな地平。

Aplio i-series Prism Edition

[一般的名称] 汎用超音波画像診断装置 [販売名] 超音波診断装置 Aplio i900 TUS-AI900 [認証番号] 228ABBZX00020000
 [一般的名称] 汎用超音波画像診断装置 [販売名] 超音波診断装置 Aplio i800 TUS-AI800 [認証番号] 228ABBZX00021000
 [一般的名称] 汎用超音波画像診断装置 [販売名] 超音波診断装置 Aplio i700 TUS-AI700 [認証番号] 228ABBZX00022000

J000160-01

キヤノンメディカルシステムズ株式会社 <https://jp.medical.canon>

Made For life